

楽しい国語科授業に向けた教材との出会わせ方

江田島市立柿浦小学校 武川由美

1 実践の趣旨

今年度、初任者拠点校指導教員として4校で授業する機会に恵まれ、偶然にも3校は同じ2年生であった。

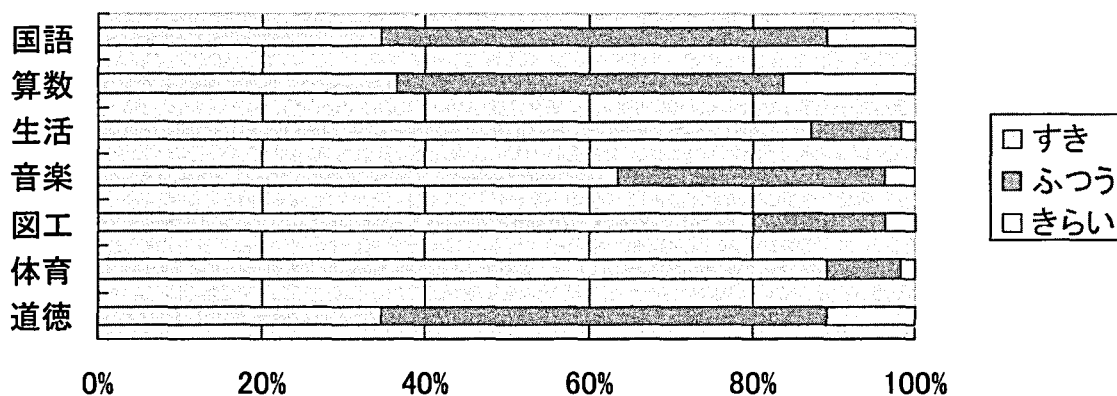
いろいろな教科の授業を行ったり参観したりしたが、子どもたちにとって「国語」はあまり好きな教科ではないのでは・・・そんな思いから、2年生55人に国語についてのアンケートを行った。

アンケートは2種類である。(実施時期：平成21年10月)

① 教科ごとのすききらい調べ

	すき	ふつう	きらい	合計(人)
国語	19	30	6	55
算数	20	26	9	55
生活	48	6	1	55
音楽	35	18	2	55
図工	44	9	2	55
体育	49	5	1	55
道徳	19	30	6	55

教科ごとのすききらい

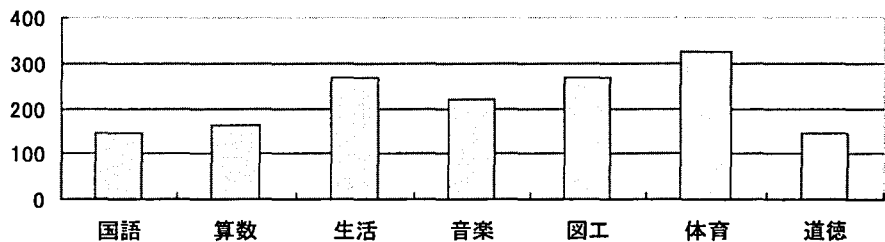


② 好きな教科の順番調べ

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
国語	3	2	1	2	18	18	11
算数	5	0	10	6	7	7	20
生活	6	16	15	6	9	0	3
音楽	3	9	6	19	7	7	4
図工	10	16	11	5	5	4	4
体育	27	9	11	6	1	1	0
道徳	1	3	1	11	8	18	13

好きな教科順 獲得ポイント

獲得ポイントを	
1位：7点	2位：6点
3位：5点	4位：4点
5位：3点	6位：2点
7位：1点として計算	



このアンケート結果を通して、子どもたちの国語嫌いの実態が明らかになった。

国語が嫌いな理由は、「長いお話があるから。」「読まなきゃいけないから。」など、読むことや時間がかかることについて抵抗感をもっていることが分かった。

そこで、少しでも「国語の時間が楽しい。」「国語の勉強がしたい。」というような国語科授業にしていきたいと痛切に感じた。そのためには、「はじめが肝心！」と考え、教材とどう出会わせるかという導入の工夫を試みた。

2 実践の概要

(1) 付箋を使って初発の感想を書く

- ・ 単元名 本と友だちになろう「スイミー」 (光村図書2年上)
- ・ 単元名 お話を楽しもう「スーホの白い馬」 (光村図書2年下)

物語文で行われるのは、全文通読をした後、「心に残ったところや好きなところを感想に書きましょう」という活動である。しかし、児童の中には、何をどう書いていいのか分からず、しばらく鉛筆が止まったままで困った顔をしている子もかなりいる。(この瞬間、国語っていやだなあと感じているのかもしれない。)

そこで、付箋を3枚使い、好きなところ(スイミー)や心が動いたところ(スーホの白い馬)に付箋を貼りながら範読を聞くようにさせた。付箋を貼った後、3枚のうちさらに好きな順に番号をつけていく。そうして、1番を付けた付箋のところについて理由やそこから思ったことなどを書くようにさせる。すると、自分の書きたいことがはっきりしてくるので、ほぼ全員の児童が書き始めることができた。

そして、一人一人が書いた感想は一覧表にして交流し、自分の感想と比べながらみんなのいろいろな感想を知って、教材文に親しみや興味をもつことができた。

(2) 教材文を読む目的を明らかにする

- ・ 単元名 たしかめながら読もう「一本の木」 (光村図書2年下)

本単元は、情報活用単元として位置付いている。

導入では、子どもたちに内容に興味をもたせるとともに、この説明的な文章の書き方を学習して、自分の文章に役立たせたいと考えた。

はじめに、それぞれ思い思いに一本の木をかかせてみた。そうすると、一人一人一本の木は全然違うことに気づくことができた。次に、同じ木をかくために、二人組で相手に説明しながらかくというやり方をすると、なかなか説明が難しく、思うように絵をかいてもらえないことも実感できた。



そこで教材文を使うことによって、うまく説明をすれば分かりやすくなることに気づかせ、説明の仕方を学習していくという動機づけを行った。教材文のよさは、順序よく書いてあることから「説明書みたい。」という児童もいて、順序や大きさが大切であると気づくことができ、興味をもって教材文を読もうという構えができた。

(3) 実生活に生かす単元構成

- ・ 外国のお話を読んで、すきなお話をしようかいしよう

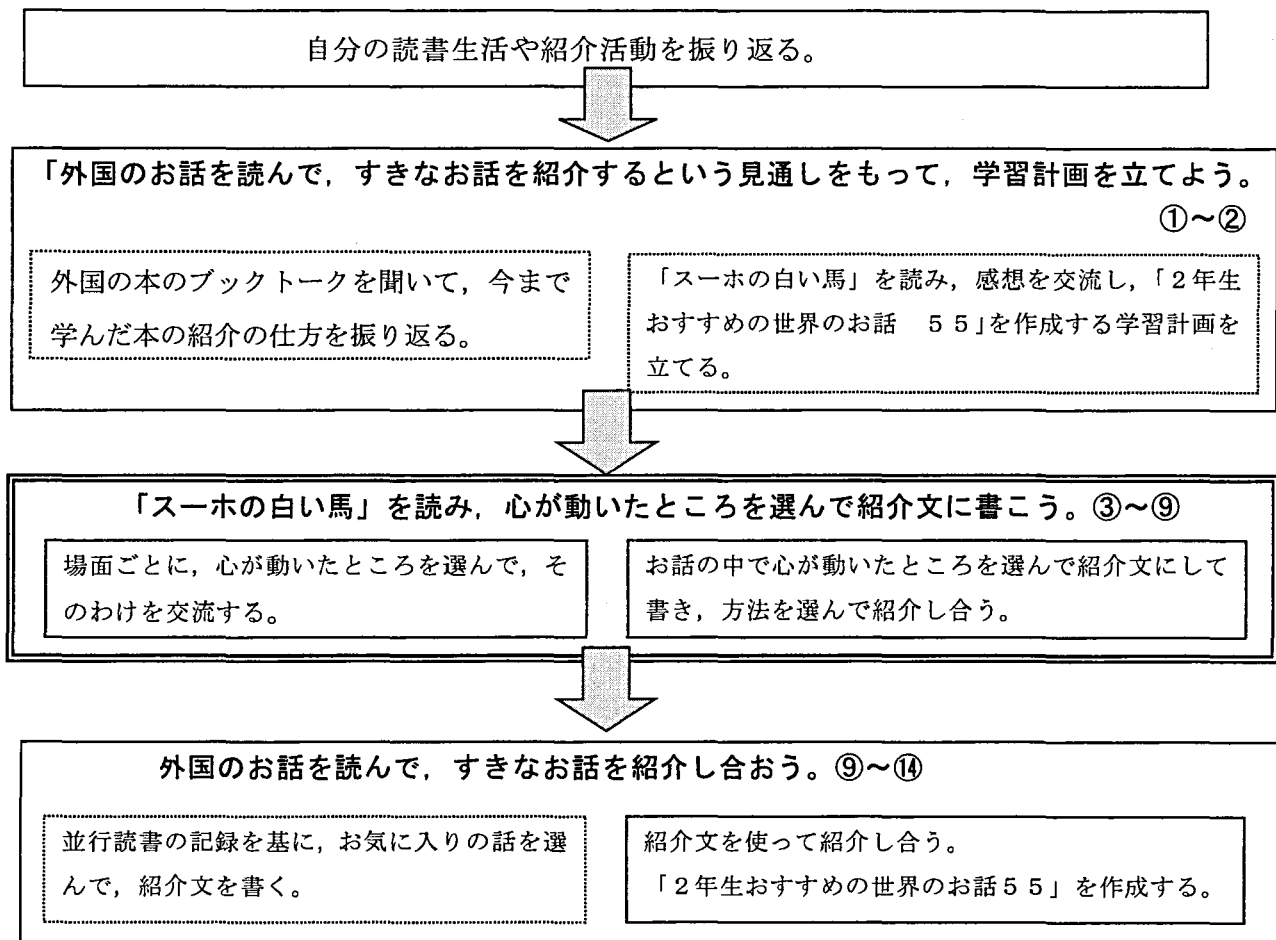
「スーホの白い馬」(光村図書2年下)

本教材「スーホの白い馬」は、スーホと白馬の心の通い合いが感動的であるばかりでなく、様子や気持ちを表す言葉も、「馬は、とぶようにかけます。」「あせが、たきのようにながれおちています。」「走って、走って、走りつづけて、大すきなスーホのところへ帰ってきたのです。」など、これまでの教材にはない動的な表現がある。この教材の持つ力を生かしながらお話の楽しさを味わい、読書の世界を広げていきたいと考えた。

そこで、つきたい力を明確にして、1教材の解釈に終始するのではなく、中心となる言語活動を設定し、様々なテキスト(外国のお話)を組み合わせる単元を構想していくようにした。また、3校の交流ができるという条件も生かしながら、活動目標を「2年生おすすめの世界のお話 55」として、子どもたちにも目的意識と相手意識をもたせた。

【 単元構想 】

外国のお話を読んで、すきなお話をしようかいしよう 「スーホの白い馬」



3 成果と課題

国語に関するアンケート（実施時期：平成22年3月）

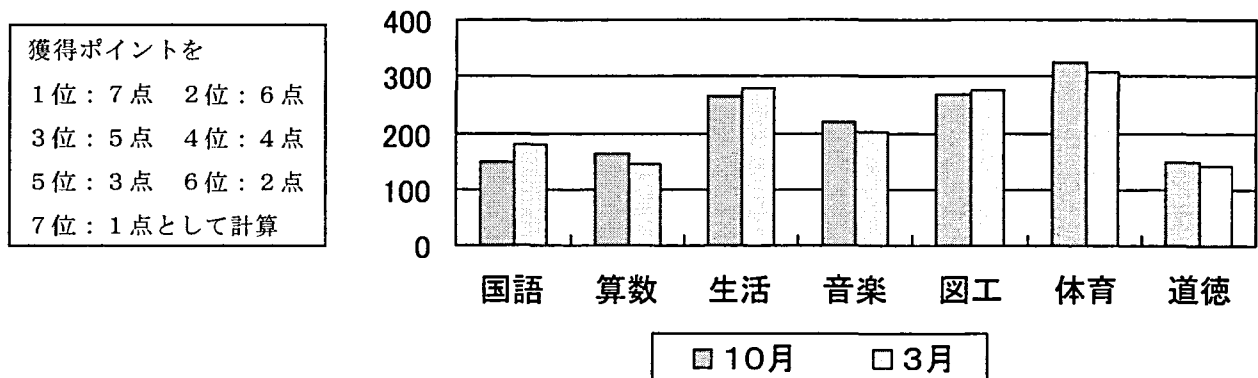
① 国語のすききらい調べ

	すき	ふつう	きらい	合計(人)
国語	27	25	3	55

② 好きな教科の順番調べ

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
国語	5	4	3	8	12	14	9
算数	2	6	2	4	6	17	18
生活	7	14	18	9	6	1	0
音楽	6	6	9	11	10	8	5
図工	14	12	7	12	6	0	4
体育	20	12	13	4	3	2	1
道徳	1	1	4	7	13	12	17

好きな教科順 獲得ポイント



- 国語が好きという児童が増え（19名→27名）、嫌いという児童が減った。（6名→3名）
好きな理由は、「いろいろなお話が出てきて楽しいから。」「本がすらすら読めるから。」などで、
少しではあるが、「読むこと」を楽しむ児童が増えてきた。
- 好きな教科として国語を1位にあげた児童が増え（3名→5名）、教科の獲得ポイントも増えた。
- 教材にどう出合わせるかを教師自身が考えることが、教材研究につながり、多様な活動を考える原動力になった。
- 国語はふつうと答えた児童の理由に、「好きなお話もあるけど、何回もいっしょのところを読むのがあって、そのくり返しが嫌いだから。」という言葉があった。このことは、せっかくの教材のよさを授業の進め方によって壊しているということである。子どもたちの姿が、授業の評価につながることを再認識し、子どもたちが意欲をもって読み進められる授業のあり方についてさらに研修したい。
- 楽しいだけではなく、力をつけるためにも、この授業で、この活動でどんなことができればいいかという子どもの姿を明確にして授業づくりを進めていく必要がある。